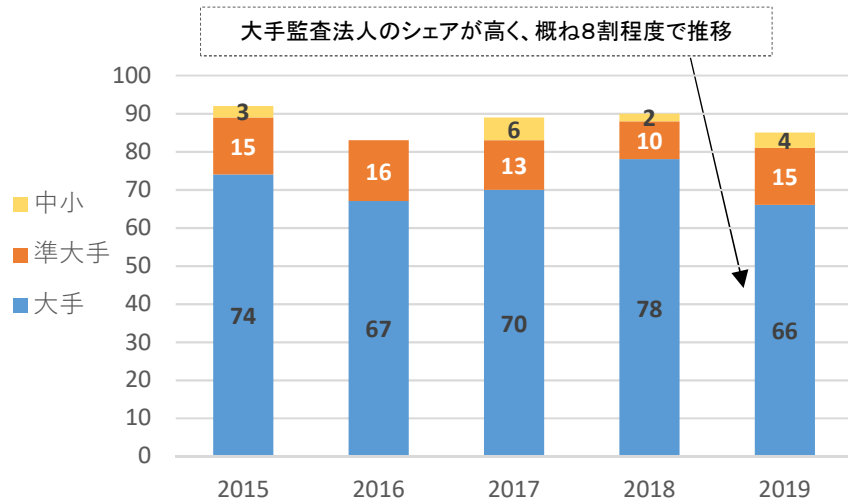


株式新規上場(IPO)に係る監査事務所の選任等に関する連絡協議会報告書(概要) (2020年3月27日公表)

現状と課題

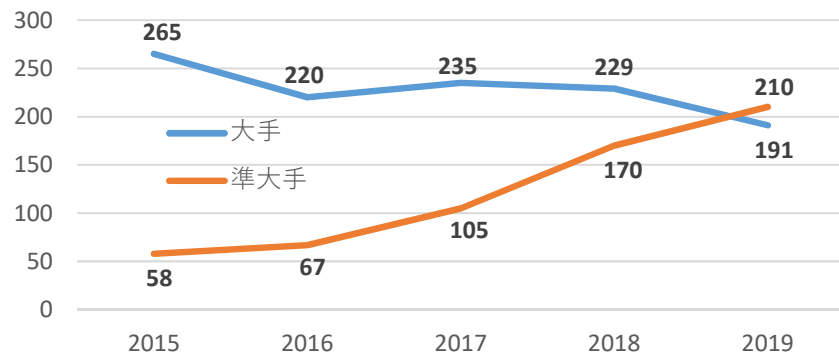
IPOを目指す企業は増加傾向。一方でこうした企業が監査事務所との需給のミスマッチ等により、必要な監査を受けられないとの指摘

IPO監査（上場直前期）の監査事務所の規模別内訳



IPO監査（IPOを目指す企業）の新規契約件数

- IPO監査の新規契約件数は、直近5年間で大幅に増加。
- 大手は、監査手続の厳格化や働き方改革等により減少傾向。
- 準大手は、直近5年間で3.6倍に増加し、2019年には大手を上回る。
- 中小は、IPO監査に意欲を示しているが、経験に乏しく、敬遠される傾向。



(注) 大手監査法人: EY新日本、トーマツ、KPMGあずさ、PwCあらた
準大手監査法人: 太陽、東陽、三優、PwC京都、仰星

IPOを目指す企業に対する質の高い監査の提供に向けた環境整備

※ 監査品質の確保はすべての根幹であり、必要な人員や監査時間等を確保できないにも関わらず、監査を引き受けることで品質を低下させ、監査そのものの信頼性を損ねることがあってはならない。

監査法人等

【日本公認会計士協会】

- IPO監査の新たな担い手となる(大手・準大手以外の)「**中小監査事務所のリスト**」の作成・公表、**当該事務所に対する専門的知見やノウハウの共有**
- 中小監査事務所、IPOを目指す企業、証券会社、ベンチャーキャピタル等の**関係者間での「対話の場」**を設定
- IPO監査の経験を積んだ後に監査法人を退職した「**独立開業の公認会計士**」のネットワーク構築
- IPOを目指す企業向けのガイドブックの改訂と周知

【大手監査法人】

- IPO監査において引き続き重要な機能を発揮すべく、**組織体制・人員配置の見直し**
- IPOを目指す企業向けの**相談窓口の設置・明確化**
- 監査を受嘱しない場合の理由説明とフォローアップ

【準大手監査法人】

- 質の高いIPO監査を継続的に提供できるよう、**組織体制・人員配置の見直し**
- **他の監査法人や独立開業の公認会計士との連携・役割分担**

証券会社

- 公開指導・引受審査において、**企業が選任した監査人と適切に連携**
- 「**中小監査事務所のリスト**」を踏まえた**主体的な取組み**(「対話の場」への参加、IPO監査の新たな担い手となる中小監査事務所の紹介等)
- 引受証券会社が蓄積した専門的知見やノウハウを監査事務所とも共有

ベンチャーキャピタル

- 「対話の場」への積極的な参加を通じて、ハンズオン支援を充実
- IPO関連のハンズオン支援のノウハウをベンチャーキャピタル間で共有

取引所

- IPO監査の担い手に期待することは、規模の大小ではなく監査品質であることを改めて周知
- IPOを目指す企業に求めること等について継続的に周知

※ 金融庁は、**実施状況をフォローアップ**し、今後とも**必要に応じて本連絡協議会を開催**